

お墓と神社仏閣は残せた
神楽は再現してくれ

さいとう よしひこ
齊藤 芳彦

元双葉町郡山行政区長

昭和15年(1940)、双葉町郡山生まれ。

江戸時代から続く旧家の出身。震災前は地域のリーダーとして、行政区長、地域の自主防災組織の会長などを務める。自主防災組織は町内第1号。そのほか、小学生の見守り隊の設立、新生活運動の推進など地域づくりを推進。双葉町・大熊町の中間貯蔵施設受け入れ後は、先祖伝来の土地を手放し、いわき市に住む。

双葉町に中間貯蔵施設をつくるって聞いたときは、

「ああ、もう絶対に戻れねえなあ」と思った。郡山行政区は原発から3km圏内にあっからな、双葉なら郡山だろうなとみんな思ってたよな。

30年とか簡単に言うけど、わたしはもう80歳だ。震災後、大きな病気もしたし、30年後には、もうこの世にはいねえよな。ただ、あの土地で何代も続いた齊藤家の土地を手放すのはなあ、辛かったな。この間、行ってみたらいろんな建物ができて、もう田んぼの影も形もなんにもねがったけど。10年前の3月11日は、郡山行政区の自主防災組織の会長として、住民の安否を確認してまわってた。

わたしもみんなと一緒に川俣町、さいたまスーパーアリーナと避難生活を送った。頼れる先がなかったわけじゃねんだけど、自主防災組織の会長だし、こないだまで区長だったしな。責任があるよな。今は区長の福岡さん、森さんがいるから、安心してまかせられっけど。われわれの郡山って集落はまとまりがよくてな。本当によかった。あそこで暮らせてよかったなあ。土地は国に明け渡したけど、区長さんのおかげで、お墓と神社仏閣は残すことができた。昔はお祭りもやったなあ。30年後だか50年後だか、郡山に戻った人らが神楽を再現してくれっといいなあ。面や太鼓もちゃんとしまってるよ。



後から見た人が再現できるようにって
神楽のビデオも福岡さんが作ってくれた